（様式１）　実践事例

学校名	二本松市立二本松第二中学校		校長名	福　本　　隆		
所在地	二本松市沖三丁目３０１番地		児童生徒数	１５３	学級数	7
ＴＥＬ	0243-22-1006	ホームページアドレス	http://www.city.nihonmatsu.lg.jp/site/dai2-jhs/			

少人数教育の充実に向けた取組

１　少人数指導の計画等

(1) 英語科における「確かな学力」を明確にしたうえで、生徒同士の学び合い活動（アクティブラーニング）を重視しながら、ペア学習やグループ学習で生徒が主体的に追究し合うことができるように場を設定する。

(2) 題材の特性や学習内容によっては、ＪＴＥ１、ＪＴＥ２とＡＬＴの３人による指導・支援体制を積極的に取り入れ、少人数での学習活動を充実させることにより、学習者の意欲を高め、学力のさらなる向上に結び付くようにする。

２　実践の概要

(1) 第１学年英語での指導基本方針
　学習指導要領解説「外国語編」で定められているコミュニケーション活動の能力を養うために、「ＣＡＮ－ＤＯリストの形で学習到達目標」を作成し、基本文を基にした言語活動やスキット・発表の場を設け、生徒が主体的に学び合うことができる活動を取り入れてきた。

(2) ペアでの学習活動
　特に新しい題材への導入で、ペア学習などを取り入れ、学習活動をより実践的コミュニケーションに近づけることにより、生徒が**「共に学び合う」**楽しみを実感することができるようにしてきた。また、その際にＡＶ機器やコンピュータゲームに慣れている生徒が多いこともあり、学習内容（基本文等）を視覚的・具体的にとらえることは導入の段階では有効性が高いので、できる限り導入することに努めた。

(3) 実質少人数教育＝習熟度別学習の効果
　ＡＬＴも含め３人の教師でＴ・Ｔの授業を行うことにより、教師１人につき１０人程度生徒を受けもち、よりきめ細かい支援・指導に努めた。ＡＬＴは中位～上位生徒、ＪＴＥ１は中位生徒、ＪＴＥ２は要支援生徒を中心に関わることを基本とした。この関わり方は絶対的なものではなく、ごく初歩的で容易な表現を用いてのコミュニケーションであればＡＬＴが要支援の生徒にも働きかけをした。

３　実践の成果と課題

○　自分の考えや意思などを表現したり、生徒の英語への興味・関心や学習意欲を高めたりするうえで、視覚でとらえることのできるような指導の手だて（具体物の提示など）を加えることが有効であった。
○　生徒の自己評価において、「英語での表現力が向上した」「学び合いにより達成感を味わった」ことを記入した生徒が多かった。互いに尋ね合ったり、身近にいる教師に気軽に質問したりと自ら学ぼうとする姿が育まれてきている。
●　要支援の生徒が「英語が分かる」「英語ができる」「自分の英語がＡＬＴに通じた」という実感をもち、学習意欲を高めていけるよう継続した支援が必要である。
●　３人による支援体制を通して、より効果的な学習活動を展開するためには、事前事後の打合せを綿密に行う必要がある。そのための時間を生み出すことが課題である。